

## 「神様から与えられる試練」

「悪魔はあらゆる誘惑を終えて、時が来るまでイエスを離れた。」(ルカによる福音書4:13)

教会暦は3月2日(水)より大斎節を迎えます。イエス・キリストがその使命を果たすために40日間荒野で断食され、悪魔による試みを受けられたことに起源を持ちます。始めの頃は、イースター(復活祭)に洗礼を受けようとする人や、悔い改めの必要な人のためにもうけられていましたが、その後キリスト者全員が守るように勧められています。

この起源となった荒野での断食と悪魔から誘惑の物語が聖書に記されています。それによるとイエスは「霊」に導かれて荒野を引き回され、そして悪魔の誘惑を受けたとあります。

悪魔とは一体何なのでしょう？この悪魔と言う言葉は、「ディアボロス」というギリシャ語が使われていますが、「間(あいだ)に投げ込む」という意味があり、おそらく、神と人の間に何かを投げ込むことで、そのあいだの関係を引き裂こうとすることからきているようです。イエスが、その宣教活動の始めにこの試みを受けられたのは、悪魔がイエスを神から引き離そうとする試みに耐えることで、自身の宣教への使命を再確認するためでした。

私たちが困難や苦難に出合ったとします。例えば、避けられない「死」を前にして、不安に押しつぶされそうになる人もいれば、その中でも神を思い、しっかりと歩み続けることができる人もいます。その一つの出来事が、その人を強め、さらに神への信仰を堅くする場合、その出来事は神からの「試練」であったといえます。逆に、そこで動揺してしまう場合は、悪魔の「誘惑」に落とし入れ

られたこととなります。同じような出来事が「試練」になったり「誘惑」になったりします。この世を生きる私たちは、様々な出来事にぶつかりますが、それを神からの「試練」と受け止めるか、悪魔の「誘惑」としてしまいかでは大きな違いがあります。結局は普段の生き方の中で、どれだけ、神を思うことができるかにかかっているように思われます。

この聖書の箇所最後に「悪魔は、あらゆる誘惑を終えて、時が来るまでイエスを離れた。」と書かれています。様々な試みを、イエスは乗り切っていたのですが、それでも悪魔は諦めず、再び誘惑するチャンスを持ったということでしょうか。キアヌ・リーブス、アル・パチーノら有名俳優が出演した『ディアボロス/悪魔の扉』(1997年公開)をご存知でしょうか。見ていない方にはネタバレになってしまいますが、映画のエンディングで、すべてのことが解決したように見えて、しかし、悪魔の姿が最後にチラッと現れるようなシーンを思い出します。(少し怖い映画ですが大斎節中に鑑賞されてはいかがでしょうか。レンタルされていると思います。)

冒頭にも書きましたがこの悪魔の試みは、霊によって導かれたものです。この霊は神の「聖霊」です。全ての試み、悪魔の誘惑と思えるような出来事も、神の聖霊の支配の中にあることを確信したいと思います。それらは、神からあたえられる「試練」であって、わたしたちをなおも神への信仰へと強めてくれるものなのです。

(司祭 越山哲也)